

## 基本の授業・応用の授業

平成18年4月に本校は、学校創立百周年を迎えます。1世紀の間に遂げた日本の変貌には目を見張るものがあります。この10年間にわたる情報関連の技術の驚異的発達、個人の意見をインターネットを介して世界中に瞬時に伝えることさえ可能にしています。他方、環境問題や国際化・共生といった人類共通の一刻を争う難問が押し寄せています。正に日本は、変革の時代、混迷の時代、国際競争の時代に臨んでいます。このような時代を生涯にわたって生き生きと豊かに逞しく生き抜く「生涯学力」を、子供たちに育てるには、「教師力」の強化が不可欠であることは言うまでもないことです。

戦後、教育学や教育心理学の発展と共に各教科の教育学が大いに充実しました。その成果を得て学習指導要領は幾度となく改訂されて、学習過程にも学習理論を生かした多種多様な工夫がなされてきました。中でも知識・理解や技能を中心とする狭い学力から、学ぶ意欲や社会の変化に対応できる資質や能力を含む広い学力へと学力観が変わったことは大きな出来事でした。

しかしながら、学習の内容の3割削減から、学力低下が危惧されました。PISAやTIMSSなどの相次ぐ国際教育調査の結果からその傾向が明らかになったとされ、今や学力向上の取り組みが不可欠となりました。

今こそ、教育現場の課題を明らかにし、新しい学力観の本質の立ち戻り、広い（意味の）学力を確かに育み、生涯学習の基礎をつくる授業づくりが、急務であると考えました。そこでこの機に、長年にわたる本校の教育研究と教育実践の特色である「子供を主体の教育活動」を土台とした「生涯学力」の育成へとつながる具体的な授業づくりの提案を行うことにしたのです。

一単位時間の中で、指導する主眼を明確にすれば、「何がわかり、できたのか」が明快になり魅力ある授業が展開できます。指導内容が曖昧であれば学習過程も曖昧になります。そこで、各教科・領域において、目指す子供の姿や授業のねらいを明確にし、ねらいに応じた「基本の授業」と「応用の授業」の授業づくりを提案しました。

知識・理解、技能・表現を、子供たちが主体的に獲得していく一単位時間1サイクルの「基本の授業」を主にした上で、解決力・創造力・対話力などの応用力を旺盛に発揮する「応用の授業」を組み込むという、授業づくりの使い分けをすることにより、「生涯学力」を、よりよく育むことができると考えたのです。基本の授業では、各教科・領域の本質に根ざした教材の分析、主体性を生かした学習過程の工夫、さらには板書計画やノート指導などの指導方法、あるいは学習規律についても具体的に述べました。基本の授業を積み重ねることにより、各教科・領域の基礎・基本を、子供が主体的に学び取ると考えます。

教師に求められているプロとしての資質は、人間力と指導力です。この両者は不可分であるだけでなく、お互いを向上させる要因であります。私共の提案が、プロの授業の復活と創造に貢献できることを願っています。

最後になりましたが、全体講師としてご指導いただきました福岡教育大学教授の寺尾慎一先生に心から感謝とお礼を申し上げます。また、原榮一先生をはじめとする本校職員の先輩の先生方から、並々ならぬご支援もいただきました。さらに、明治図書編集部長の樋口雅子様温かいご助言とお力添えを頂くことで初めて本書を世に問うことができました。

ここに厚くお礼を申し上げます。

平成18年3月  
福岡教育大学附属久留米小学校  
校長 櫻井 孝俊